

スパイダープラス株式会社 事業説明

2024年7月

SpiderPlus & Co.

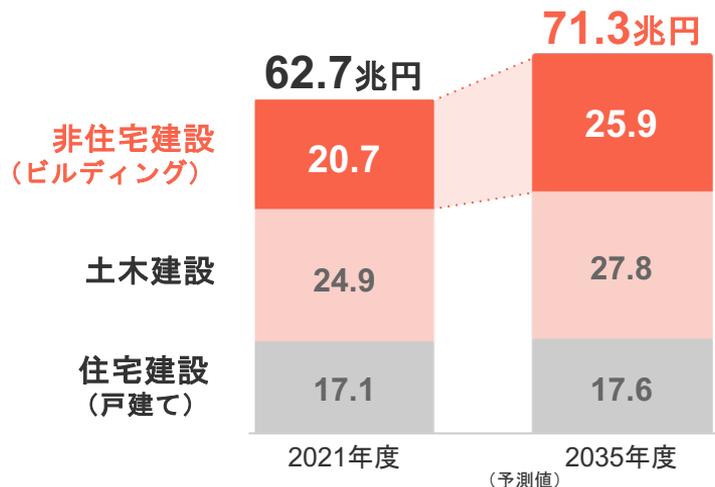
建設現場をDXする

Construction

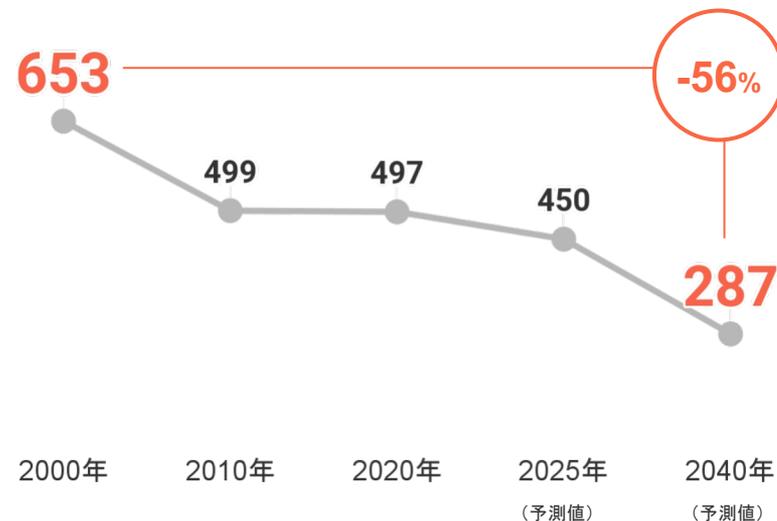
Technology

都市部の再開発などによって市場は拡大する一方、 建設業界の働き手は減少を続ける

拡大する需要*1



減少する担い手*2



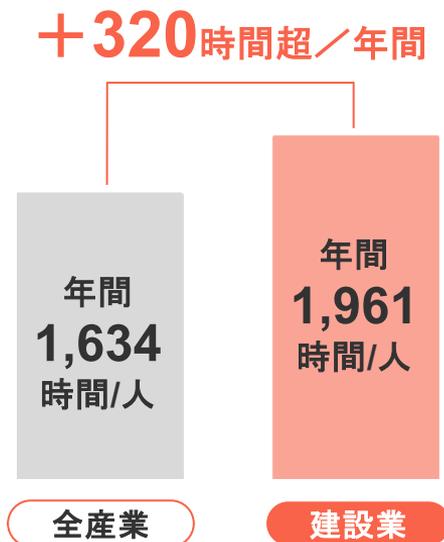
*1: 2035年度の見通しは、(一財)建設経済研究所による新型コロナウイルスから早期に経済回復した場合の試算値により弊社作成。

*2: 2020年3月16日発行 日経BP「建設テック未来戦略」及び、総務省平成27年国勢調査「就業状態等基本集計結果」及び国土交通省「令和2年度(2020年度)建設投資見通し」より、2020年度の国内建設業投資額63兆円(見通し)が2040年まで同程度で推移した場合、建設業就業者がより不足すると弊社独自に推計。

人手不足を背景に、長時間労働が常態化

2024年4月から、残業時間上限規制が適用開始（2024年問題）

建設業界の残業時間（全産業比較）*1



残業時間上限規制*2

労働時間の上限規制（原則）

残業時間は1ヶ月あたり45時間まで

違反事業者は罰則対象

6ヵ月以下の懲役または30万円以下の罰金

*1：厚生労働省「毎月勤労統計調査」における2022年各月の結果を基に弊社集計。

*2：「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」を指し、2024年4月から適用開始。

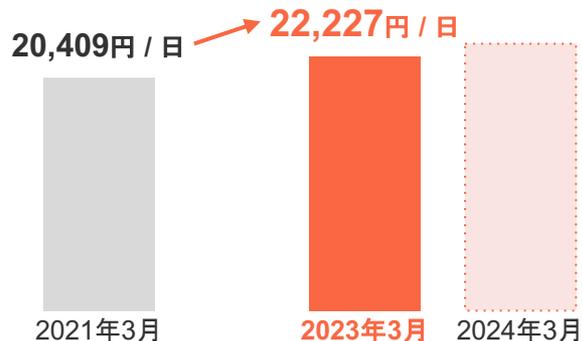
資材価格高騰を背景に、コスト負担が増加 建設業界における生産性向上は喫緊の課題

人件費の上昇*1

2年間で
約**10%**上昇

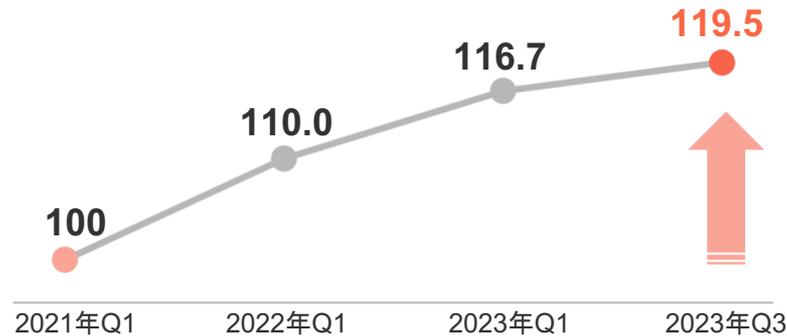
+

2023年度賃上げ目標
前年比**+5%**



資材価格の高騰*2

約**20pt**上昇



*1：2021年3月及び2023年3月の労務費は、国土交通省「令和5年3月から適用する公共工事設計労務単価について（令和5年2月14日）」より抜粋。2023年度賃上げ目標は、（一社）日本建設業連合会「建設工事を発注する民間事業者・施主の皆様に対するお願い（2024年1月版）」より抜粋。

*2：（一社）日本建設業連合会「建設業デジタルハンドブック 建設資材価格（企業物価指数）の推移」のデータをもとに弊社作成。

建設現場にサブスクリプションでSaaSを提供 現場監督の施工管理を効率化する「SPIDERPLUS」

S⁺ SPIDERPLUS



図面管理



写真管理



検査記録



帳票作成

建設現場の生産性・人手不足に、確かな効果を発揮する

図面管理

最新図面がどれか分からず
図面の取り違えが発生



最新の図面が一目でわかり
施工ミスを防止



検査記録

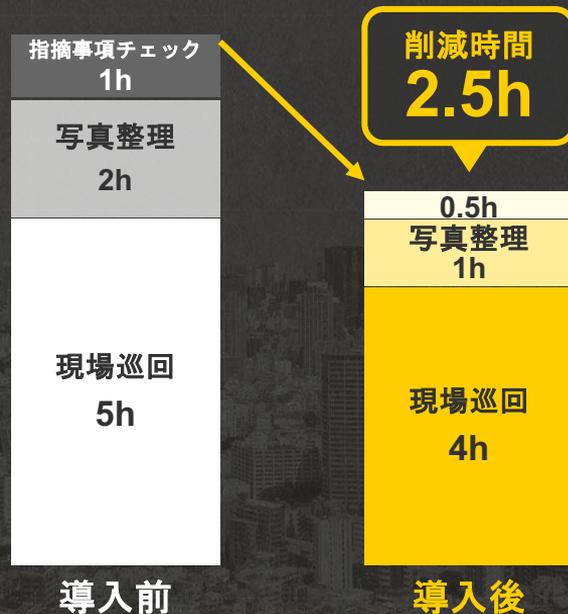
検査時には
多くの人手が必要



検査機器を使用して
一人で検査が完結



SPIDERPLUSの導入効果*1



*1: 削減できる作業時間はタブレット+SPIDERPLUS導入企業の社内調査資料に基づくもの。

大手建設会社を中心に導入が進むSPIDERPLUSは、 建設DX業界のリーディング・カンパニー

導入企業抜粋



大林組



鹿島



Make Next.
九電工



Kinden きんでん



清水建設



大気社



大成建設

For a Lively World

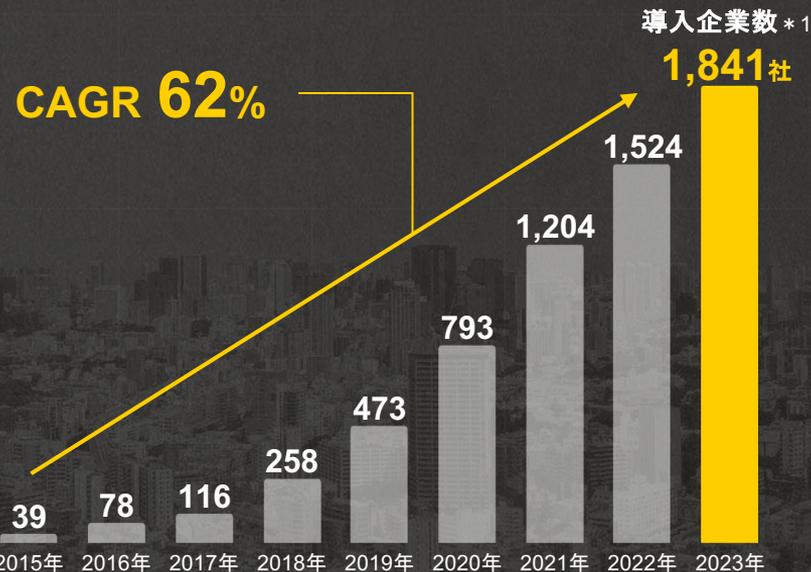


高砂熱学



思いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA



*1：導入企業数は各年12月末時点のSPIDERPLUS導入企業の実績。

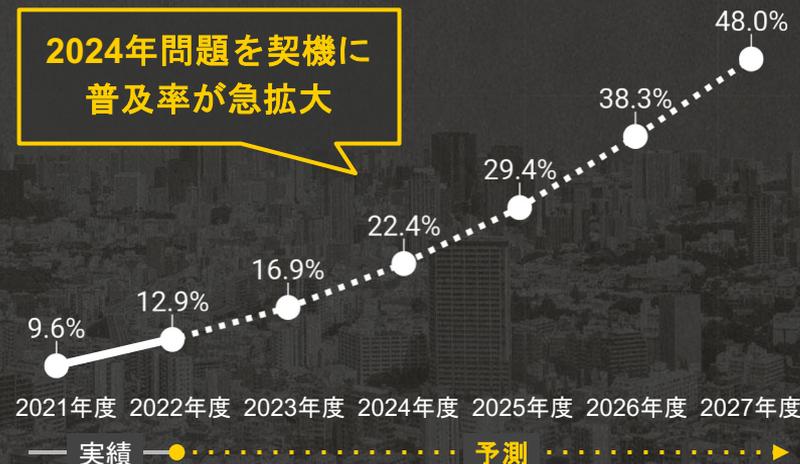
© 2024 SpiderPlus & Co. Securities Code : 4192

変革をもたらす法規制・法改正が続く建設業界 これらを背景に、建設DX市場は拡大期に

建設業界に訪れる転換点



建設DXの普及はこれから加速*3



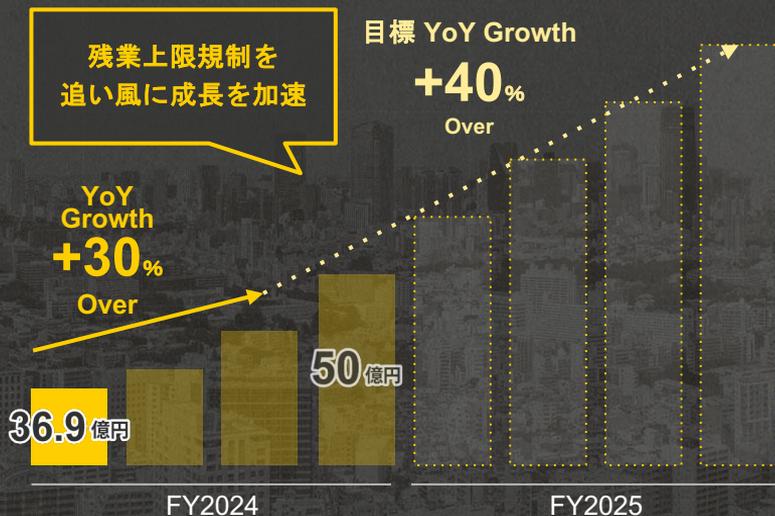
*1: 国土交通省「令和5年度のBIM/CIM原則適用に向けた進め方」及び、デジタル庁「デジタル原則に照らした規制の一括見直しの進捗と取組の加速化について」

*2: 令和6年3月8日国土交通省発表 建設業法及び公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の一部を改正する法律案

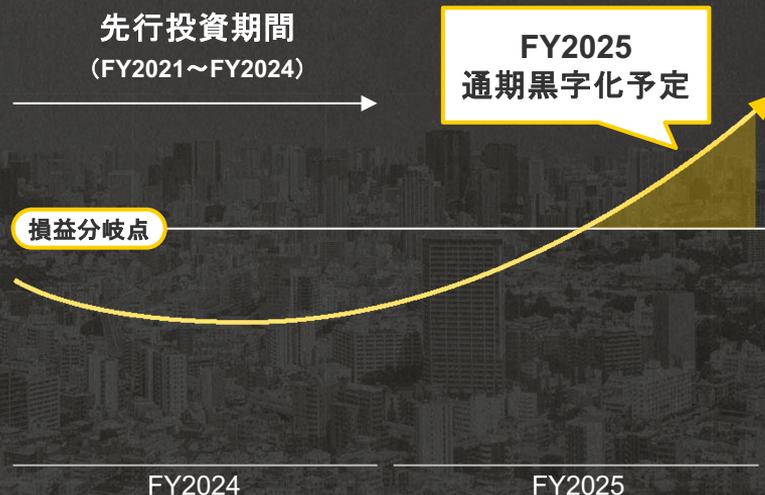
*3: デロイト トーマツ ミック経済研究所株式会社 ミックITリポート2023年10月号「建設業マネジメントクラウドサービス市場の動向とベンダシェア」より引用。

拡大する需要を取り込み、成長性を加速 先行投資期間を経て、収益拡大も両立するフェーズへ

ARRの進捗見通し*1



営業損益のシナリオ*2



*1: 上記図表は、当社の利益及び投資に関する考え方の説明を目的に作成したものであり、FY2024.Q1以降の売上及び利益について予測を開示するものではありません。

本動画のまとめ

1

市場環境

建設業界は70兆円を
超える巨大な産業
生産性向上が喫緊の課題

2

事業内容

施工管理SaaSの開発・販売
建設DXの
リーディング・カンパニー

3

事業計画

市場の転換点を捉えて
CAGR40%を目標に、
ARR100億円の達成へ

スパイダープラスのIR情報のページも
ぜひご覧ください



スパイダープラス IR



建設現場を DX する

Construction

Technology